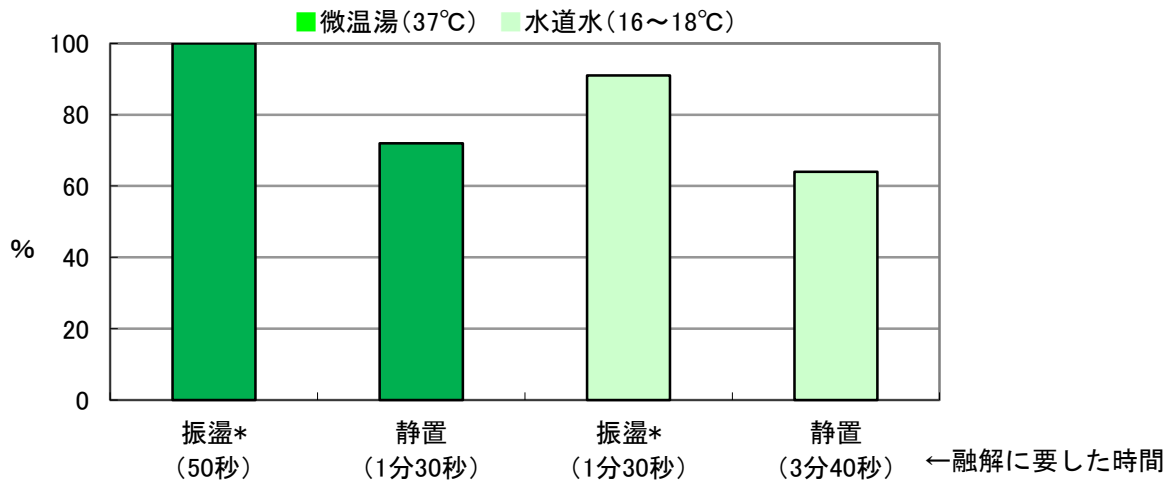


## アンプルの融解条件がワクチンウイルス量に与える影響

(微温湯中において緩やかに振盪して融解させた場合のワクチンウイルス量を 100 とする)



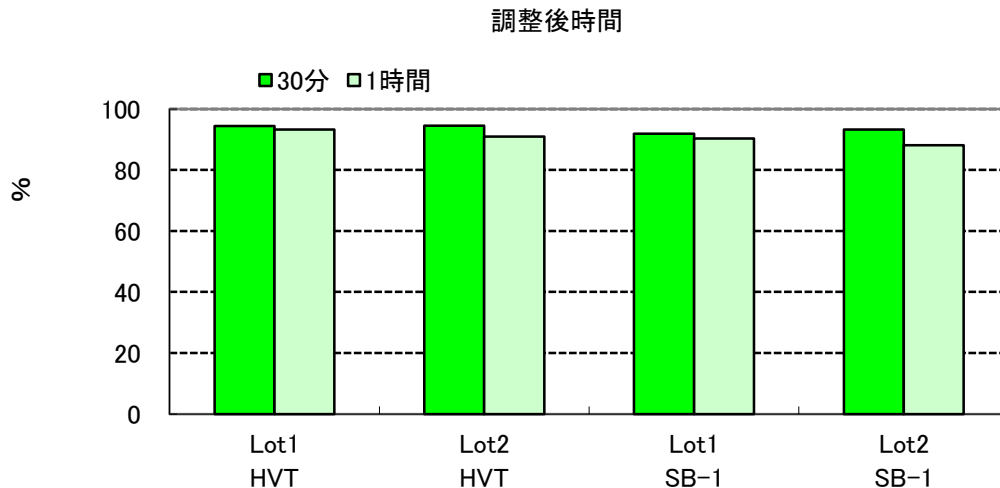
\*:緩やかに（軽く）振盪

☆アンプル中には凍結時は細胞を保護しても、融解後には損傷を与える物質が含まれていますが、マレック/バッグの中には、ワクチンの細胞を守る成分が含まれています。アンプルの融解は短時間で行い、融解後は直ちにマレック/バッグに注入して下さい。

※1984年試験 ワクチンウイルス株：七面鳥ヘルペスウイルス FC-126株（以下、HVT株）

## 溶解用液に溶解後のワクチンウイルス量の経時的変化

(調整直後のワクチンウイルス量を 100 とする)



☆調整後であれば、室温に放置してもワクチンウイルス量の低下は最小限に抑えられますが、1時間で約6~20%以上低下します。なるべく速やかに使い切して下さい。

※1998年試験 ワクチンウイルス株：HVT株、マレック病ウイルス SB-1株